

2019年4月～2019年7月

# かてい

2019年7月10日発行

学園短信 一歩ずつ、着実に。

新年度。新元号。新たな時代に向け温故知新で頑張ります。

## ■巻頭言

「将来健全なる家庭婦人ならしめる事」

この言葉は家庭学園のリーフレットに今でも書かれている目的（自立支援方針）です。私が就職面接の為、初めて家庭学園の門をくぐった平成三年に当時生活指導主任であった有馬和光先生からこの目的が書かれたリーフレットを手渡されました。「今時こんな言葉使うのかなあ、健全なる家庭婦人って何？」それが初めて読んだ時の感想（違和感）でした。それから三十年近くが経過し、価値観や言葉の言い回しが多様化していく中でも、今もこの言葉はリーフレットに残っています。私のこの言葉の印象は相変わらず「古臭い言葉」ですが、入職時に感じた「違和感」はなく、多くの人たちの思いと実践によって受け継がれている言葉なのだと思います。

野菜の切り方や保存方法、下ごしらえ、出汁のとり方、鍋の洗い方まで丁寧に教えてくれる調理教室。贅沢できるお金がなくても、レトルトや外食に頼らなくても、自分の腕前だけで大切な人と温かい食卓を囲むことが出来るように、退園していく子どもたちは、レシピを大切に持って社会に出ていきます。学科指導では、主要教科だけではなく、二十四節気や季節ごとの手紙の書き方、食事の作法など、『知らなくても困る事はないかもしれないけれど、知っていると普段の生活が、少し豊かな気持ちになる』そんなことも大切に子どもたちに伝えていきます。

スポーツ指導では、楽しい事と楽しい事はイコールではなく、厳しい練習の先に楽しい事はあることを皆で共有し、頑張っている人を讃え、応援できる気持ちを育みます。しかし、スポーツに勝ち負けは付きもので、努力して一生懸命練習しても大会ではほとんどの子どもが「負け」を経験

します。その「負け」をしつかりと受け止めるため、最後の最後まであきらめずに頑張り続ける（職員は「しつかり負ける」と呼んでいます。）事を大切に職員は子どもたちと日々汗を流しています。

生活場面では、冬の寒い日には干して陽の匂いがする温かい布団を、押し入れにはあえて入れずに子どもたちが眠る時にその温かさを感じられるよう二つ折りにして部屋の隅に置いておく。そんな心配りを職員たちははしてくれています。また、今は行っているのかわかりませんが、日々の作業やスポーツで穴が開いてしまった靴下を電球に被せて繕っていました。繕うときには別の色のあて布でカラフルにしてみたり、動物の顔の模様に見たりと工夫して楽しんでいたことを思い出します。

これらは、日々の生活でのほんの一場面ですが、これらの「場面たち」が積み重なって、家庭学園が子どもたちに伝えたい思いになっているのだと感じます。

「将来健全なる家庭婦人ならしめる事」この言葉の中には、忘れてはいけない事の一つは「将来」です。今は苦しいかもしれない、でも今日よりも明日なのです。明日のために今日を大切に家庭学園の職員は子どもたちと向き合っています。そして、心豊かな女性になってもらいたいという事です。社会に出ても、家庭に入っても、季節のちよつとした変化や日々の生活の中の小さい変化にも感動できる感受性豊かな女性になってもらいたいと願うという事だと思えます。その過去から受け継がれてきた思いを大切に、子どもたちと共に歩んでいる家庭学園を今後も陰ながら応援し続けたいと思っています。

元横浜家庭学園 園長（現横浜中里学園 園長）

井莉 献太

# 家族舎紹介

現在、三寮体制で運営をしています。

一家庭、二家庭、四家庭の順で紹介していきます。



## 一家庭

五十嵐先生、作山先生、奥山先生

一家庭は三月に三名が退園し、四月に新入生を1名迎え、新年度を四名の児童でスタートしました。一時期よりも人数が減ってしまい少し寂しい気持ちもありますが、子供も大人も一人一人が笑顔溢れる家族舎を目指し心新たに生活しています。

## 【ちひろ】

昨年度の二月から就労訓練を始め、様々な社会経験を通し、顔つきが徐々にお姉さんになってきました。時に天然キャラで空気を和やかにしてくれる、頼れる一家庭のリーダーです。

## 【あやか】

四月から実習科になりました。まだまだ甘えん坊ですが、徐々にしつかりしてきました。今年は水泳を頑張りたいと意気込んでいます。真っ白な肌が真っ黒になるまで練習してほしいです。

## 【ゆうき】

いつも元気いっぱい学園のどこにいても声が聞こえてきます。彼女の元気がみんなを明るくしてくれます。今年はこの元気を生かし様々なスポーツで優勝を狙っています。

## 【ゆい】

四月に入ってきたスーパー新入生です。マイペースに見えても、実は負けず嫌いで内心メラメラさせていることが多い様です。今は数多くある嫌いな食べ物と格闘中です。

## 【ありさ】

彼女も七月に入ってきたフレッシュな新入生です。中学一年生らしく、勉強にもスポーツにも元気いっぱいチャレンジしてほしいです。



## 二家庭

勝先生、阿部先生、北口先生

二家庭がひらかれて、一年半が経ちました。少しずつ人数が増え、様々なことがありながらも成長してきました。これからさらに賑やかな寮にしていきたいです。

## 【さら】

学園の頼れるお姉さんになってきました。学園内の生活とボランティアの両立を一生懸命頑張っています。特技…整理整頓

【りょうか】

不思議ちゃん一号。マイペース・マイワールドを貫き通し生活しています。趣味：裁縫

【じゅりあな】

二家庭のムードメーカー。ちよつと抜けている所がありますが、いつも大きな笑い声で家族舎を明るくしてくれています。好きな食べ物：寿司・魚

【ひかり】

見つめられるとニコツとしてしまう照れ屋さん。最近はスポーツにひたむきに取り組んでいます。宝物：ウツデイのぬいぐるみ

【すず】

不思議ちゃん二号。入所からまだ日が浅い中で苦労しながらも一生懸命生活しています。背負っているもの：ギター



四家庭

野村先生、佐藤先生、宅島先生

四家庭では、当たり前前のことを当たり前前に生活し、過ごしやすい雰囲気自ら作り、『思いやり』をモットーに日々生活しています。

【かや】

四月で実習科になりました。最年長としてみんなを引っ張っていつてくれています。年下に優しく四家庭のお姉さんの存在です。

【はるか】

四月で実習科になりました。最年長として、誰か困っている人がいたら話しかけてくれます。正義感溢れる行動で四家庭を支えてくれています。

【しずく】

中学三年生のスポーツ大好きで活発な女の子です。負けず嫌いで悔し涙を流すことも多いですが、強いハートを持って頑張っていると思います。

【みな】

四家庭での生活が一番長く、四月で中学二

年生になりました。相手への優しさで周囲を優しくしてくれます。

【みな】

入所間もない中学三年生です。何気ない一言が周囲を和ませてくれます。これからいろいろなことに挑戦していつてほしいです。

【かえで】

四月で中学一年生になりました。四家庭の最年少で、みんなに可愛がられながらのびのび生活しています。

【みせり】

彼女も入所間もない中学三年生。笑い上戸で食事の時はお話が盛り上がり、間に合わないこともあります。少しずつ生活にも慣れてきたようでソフトボールの練習を頑張っています。



春の行事

● 4月2日 お花見

於 横浜家庭学園

グラウンドに満開になった桜を見ながらお花見バーベキューを行いました。レクリエーションでは、それぞれ大きな声で勉強を頑張る。スポーツで諦めずに頑張るなど目標を発表し、綱引き、ドッチボールと大盛り上がりでした。



● 5月4日 運動会

於 横浜家庭学園

青空の下、児童、職員総出で運動会を行いました。今年も紅白に分かれて協議に一生懸命取り組みました。結果は赤組が優勝しました。競技中や運動会終了後には、『楽しかったね』や『みんな頑張っていたね』などといった爽やかな声でいっぱいになりました。



大盛り上がりだった台風の目の様子です。



目隠しをして職員のところに向かう「ママのところへおいで」の様子



●5月10日 春季遠足

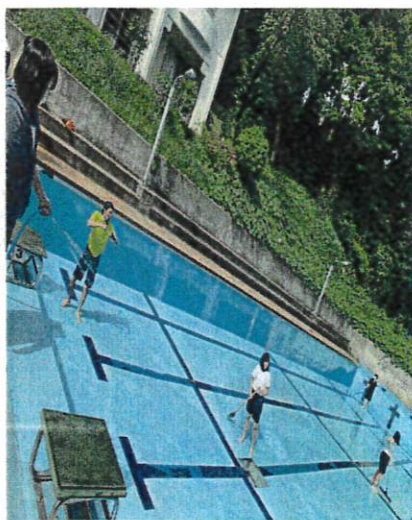
於 大菩薩峠(山梨県)

春季遠足は、山登りをしました。行き先は山梨県大菩薩峠です。今回は弱音を吐かないと決めた子が多く、頂上での絶景を見るために一歩一歩頑張って進みました。時に気持ちが悪そうになってしまふときは周りの仲間を励ましてもらいながら頑張りました。頂上で食べたお弁当、カップラーメン、ココアはいつも以上に美味しく感じました。下山した後は、温泉に入り疲れを癒してから帰りました。



●6月3日 プール開き

園内でプール開きを行いました。プール開きを行う前に、「これからよろしくお願ひします」の意味を込めてプールを綺麗に掃除しました。子どもたちからは「夏が始まるね」と話しながら作業を進めました。また、プール開きの時は少し寒かったです。2年目以降の子は張り切って泳ぎ、感覚を思い出していました。



●6月9日 県卓球大会

於 寒川総合体育館(寒川町)

神奈川県卓球大会が行われました。この日に向けて、たくさん練習を重ね卓球の技術だけではなく、礼儀正しく、日々の生活を見直す、『自分に矢印を向ける』(物事の原因を環境や他者のせいにならない)を目標に取り組みました。大会では最後まで諦めずに試合をすることができました。

試合を通じて相手を敬う気持ちや、勝つことの難しさ、負けてしまつてからの反省の大切さをたくさん学ぶことができました。試合中の様子です。



## 編集後記

新年度になり、新元号になり、あつという間に六月も過ぎ去り、この二〇一九年も折り返しを迎えました。当園で一番フレッシュな委員会である自負を持っていましたが、最年少の職員も四年目を迎え、時のはやさに驚きを感じざるを得ないというのが正直な感想です。

さて、今年度第一号の「かてい」は同法人内の児童養護施設「横浜中里学園」の園長で、元当学園の園長であった井荻先生の巻頭言からはじまり、六月まで入所している児童までを反映した各家族舎の紹介、同じく四月から六月末までの行事や園内での出来事を紹介した記事を掲載させていただきました。

職員の入替わりがそれなりにある当園では、三十年近くの経験と歴史を語って下さった井荻先生の巻頭言は大変貴重なものです。

「健全なる家庭婦人ならしめる」これは児童のみならず職員にも等しく言えることで、退園した児童が旦那さんやお子さんを連れて遊びに来ることと等しく、離職した元職員が遊びにくることととても嬉しく感じます。この記事を読んで、「我こそ健全なる家庭婦人である!」と思われた退園生、元職員は是非遊びに来てほしいと思います。(もちろん、そうとは思っていないまでも「久しぶりに遊びにいききたいな」と思われたら遊びに来てください。)

井荻先生の巻頭言について少し長く触れすぎましたが、家族舎紹介や行事紹介を書いている雑感としては、「記事を書いているだけでもその年の子供たち

の雰囲気がよく表れるなあ」というところですか。今年の子供たちは明るく「ノリ」の良い子が多く、こうして事務所でPCに向かっている今でも、外からスポーツをしている掛け声が響いてきます。「ダルい、めんどくさい」を乗り越えて職員も子供も元気いっぱいに活動している様子はこちらも元気づけられます。

今回の編集後記はもう少しだけ続きます。現在の編集委員会のメンバーの大枠が固まり約三年。家族舎(寮)のメンバー紹介や作品の紹介、行事の紹介等を記事に重ねて参りましたがなんとなくマンネリズムを感じつつもあり、どうしたものかと思つているところです。普段の業務に忙殺されるなかで原稿を書き上げている現状では、「多少マンネリしていても書き上がっていればいいや」となりがちですが、この広報紙の意味、学園で起きたことなどを文字に起こす意味を振り返ることは、日々の日常に身を委ねながらも決して振り回されることなく自分たちがどこを目指しているのかを再確認することにつながっているのかなと感じています。「めんどくさい」と意味づけるか、「きつと何かの役にたつ」と意味づけるかは自分たちの裁量にありどちらも自分たちが選択できることを決して忘れずに広報紙の作成と忘れがちなブログの更新に励んでいきたいと思えます。次号は少し趣旨を変えて、学園内で働いている方々にフォーカスしたものを発行しようと思案しています。次号もお楽しみに!(松浦)

「かてい 二一十一号」編集委員会

貴田・北口・宅島・野村・松浦

令和元年度在籍状況 (6月末日)

	横浜市	神奈川県	川崎市	相模原市	横須賀市	他県	合計
今年度定員	7	8	2	2	1	0	20
6月末日現在	6	6	2	1	0	2	17

社会福祉法人 幼年保護会 横浜家庭学園

神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町18番1号

電話: 045-331-5884 FAX: 045-331-5013

E-mail: yokohamakatei@khh.biglobe.ne.jp

ホームページ (ブログ更新中!): <https://www.yokohamakateigakuen.org/>